

新公立病院改革プラン

【果たすべき役割編】



令和元年度実績

令和3年1月28日

新公立病院改革プラン4年目実績について

【果たすべき役割】

【総括】

当院が策定した「新公立病院改革プラン（果たすべき役割）」では、大きく4つの基本方針を定め、それに基づいて取り組みを進めている。令和元年度の主な取り組みとしては、平成31年4月に掛合・吉田周辺地域の医療を担っている掛合診療所を雲南市立病院に経営統合し、医師・看護師等の確保、医療の充実など経営の安定化を図り、さらに訪問診療の充実が図れるよう在宅医療体制の整備を進めた。また、歯科口腔外科を9月に新設し、医療提供体制の充実を図ったことを始め、医療出前講座を計107回開催し情報発信に努めるとともに、地域住民の健康に対する予防啓発に努めた。一次医療機関との連携強化においては、準無医地区となった田井地区において雲南市からの要請に基づき巡回診療を開始し、地域医療拠点病院としての役割の一旦を果たすことが出来た。

次に、当院が重点施策としている医療職の育成においては、総合診療専門研修プログラムによる専門研修を開始し、1名の専攻医が着任したことを始め、各種体験セミナーの継続的な開催や島根大学医学部からの地域医療実習及び地域医療研修の受け入れ態勢の充実を図ってきたことにより、当院を研修先に選考する初期研修医や医学生も多くなってきている。その結果として、研修した医師の内8人がこれまで当院に常勤医師として着任しており、平成21年4月に設置した「地域医療人育成センター」における各種医療職育成の取り組みが、徐々にではあるが実ってきている。

基本方針

1. 住民の安心安全のための医療充実

(1) 地域医療の拠点病院として、急性期・回復期医療を中心とした医療を提供します

- ・急性期医療を担う上で、血液凝固自動分析装置、手術用電動工具などの高度医療機器について、機器更新を実施した。
- ・新規に開設した歯科口腔外科について、診察ユニット、歯科レセプトシステムの新規整備を行った。

(2) 災害拠点病院として、災害時の医療提供体制の整備を図ります

- ・災害派遣医療チーム（DMAT）について2班体制を維持し、医療救護体制の充実を図った。
- ・平成30年度に作成した事業継続計画（BCP）に基づき災害想定訓練を2月に実施した。

(3) 救急医療体制を維持し、住民が安心して生活できる二次救急医療を提供します

- ・救急連絡会を通じて救急車の受入不可事案を検証しながら、救急車の受入件数の増加を図り救急医療の充実に努めた。

(H27年度:591件、H28年度:741件、H29年度:830件、H30年度:827件、R1年度:904件)

- ・雲南市休日診療に協力し、休日の救急体制の充実を図った。インフルエンザ流行期の効果（救急外来の適切な運用、感染拡大の防止等）が多大であった。

(4) 安心して子育てできる環境を確保するため、小児・周産期医療の連携を密にした診療体制を整備します

- ・新棟において、産婦人科外来と病棟の一体化、病棟内のユニット化を図り、安全と安心の提供に努めている。
(出産数 H28年度:46件、H29年度:39件、H30年度:69件、R1年度:66件)
- ・小児科医師2名体制を維持し、小児救急対応や入院できる医療機関としての体制の充実を図っている。

(5) 地域包括ケアシステムを構築する一環として、在宅医療や認知症対策を推進します

- ・在宅医療を推進するため、地域ケア科を中心に訪問診療（H28年8月）を開始した。令和元年度は、実患者数28名に対し延べ訪問診療170件、往診14件、在宅看取りを10名に実施した。
(H30年度:実患者数28名に対し延べ訪問診療205件、往診30件、在宅看取り14名)
- ・平成29年度、院内に多職種協働の認知症サポートチーム（DST）を設置し、ユマニチュード研修へ計画的に職員を派遣し、より専門的な知識の習得を図っている。また、9月には、岡山大学のD-mac（せん妄対策チーム）において2日間の研修を受講した。11月には、岡山大学医学部より講師を招き、認知症研修会を行い、職員間のレベルアップに努めた。
- ・認知症に対する専門的な知識を有する認知症認定看護師の資格を1名が取得した。また、出前講座等で専門的な知識を介護現場へも情報提供を行った。

(6) 情報発信に努め、定期的に地域との連絡の場を確保するなど、地域に開かれた病院を確立します。

- ・令和元年度は、がんばれ雲南病院市民の会及び雲南市立病院ボランティアの会主催による、新たに着任された医師の歓迎会が前年度に引き続き開催され、地域を挙げて6名の医師を歓迎していただいている。
(H29年度:医師5名/2回、H30年度:医師3名/1回、R1年度:医師6名/1回)
- ・令和元年度の医療出前講座は、全107回、延べ3,010名の市民の皆様にご利用いただき、地域における予防等の普及啓発活動を推進した。
(H27年度:全60回、延べ1,536名、H28年度:全81回、延べ2,058名、
H29年度:全80回、延べ2,368名、H30年度:全100回、延べ2,058名)
- ・雲南地域医療を考える会主催の地域医療を考えるシンポジウムや、地域を守り育てる住民活動シンポジウム等に住民の方々と一緒に参加し、意見交換や情報共有を行い、地域住民と病院職員が一体となった活動を継続し更なる連携強化に努めた。

基本方針

2. 高度先進医療及び地域医療機関との連携強化

(1) 高度の医療を中心とする5疾病などの医療は、急性期と回復期医療の中心的役割を担いつつ三次医療機関との連携を図ります

- ・三次医療機関からの逆紹介について 100%を維持しており、引き続き三次医療機関との情報共有と連携強化を図っている。また、回復期リハビリテーション病棟において、土日祝日にリハビリテーションを実施し、集中的なリハビリテーションを365日行い、早期の在宅復帰を果たすことができる体制を継続している。

(2) 一次医療機関（診療所）との連携を強化します

- ・平成27年7月から在宅療養後方支援病院として、患者・家族の安心の担保、開業医医師の負担軽減を図ってきており、現在登録患者数は265名（令和2年3月末現在）となっている。
- ・令和元年11月より、吉田町田井地区において毎週火曜日に巡回診療を開始し、田井地区や温泉地区の地域の医療の一助となった。
- ・在宅医療の推進にあたり、連携強化や様々な課題を話し合うための場作りが重要であるため、平成29年より開業医医師と合同で症例検討を行う「うんなん病診連携勉強会」を開催している。令和元年度は4回開催し、22名前後の参加があり病診連携の強化と顔の見える連携体制構築を図った。

(3) 圏域内の二次医療機関との連携を図ります

- ・引き続き町立奥出雲病院に耳鼻科医師を、飯南町立飯南病院に整形外科医師を週1回派遣し、連携強化に努めている。
- ・医師をはじめとする医療職の人材育成や人材確保、また医療安全及び感染防止対策に対する取り組みなど、町立奥出雲病院と今後の更なる連携強化を図るため、「地域医療連携推進法人」の設立を目指し、雲南保健所の参画もいただき準備を始めた。

基本方針

3. 地域保健の充実と介護・福祉との連携強化

(1) 圏域内の保健・福祉と一体とした地域医療サービスを提供します

- ・令和元年度出前講座では、介護施設へ医師や認定看護師等を10回程度派遣した。また、在宅看取りや健康長寿に関する講座へ医師を派遣することで、より専門的知識や情報を提供し地域の医療と介護の連携に努めた。

(2) 地域保健と連携し、生活習慣病の重症化の予防を図ります

- ・令和元年度は、特定健診要精査者のフォローアップや生活習慣病予防のため、糖尿病教室（3回）、健診事後フォローアップ教室（2回）の保健事業を実施した。地域の交流センター等を会場にして、地域の保健関係者と連携しながら実施した。
- ・令和2年3月に糖尿病教室を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止した。
- ・雲南市の保健師と連携し、市民健康講座を2回開催した。

- ・糖尿病対策委員会及び糖尿病サポートチームを中心に、院内外での研修会及び連絡会に積極的に参加し、糖尿病患者の支援、啓発活動を推進した。

(3) リハビリテーションを中心とした環境を整備し、高齢者が安心できる医療を提供します

- ・雲南市地域ケア会議、雲南市地域リハビリテーション活動支援事業（雲南幸雲体操指導）に療法士が参画し、介護・福祉と連携した取り組みを行っている。
- ・訪問看護ステーション配属の療法士のほかに、必要に応じて利用者のニーズがある言語聴覚士が訪問リハビリを行い、リハビリテーション提供体制を強化している。

基本方針

4. 地域医療を安定的に提供するための健全経営

(1) 安定した医療を提供できる人材確保や育成に努め、また職員意識の高揚を図ります

① 医師確保について

(ア) 令和2年4月1日現在の医師配置数

- ・医師数：29人 ※会計年度職員4名を含む
- ・非常勤医師：常勤換算数 4.5人（実人数 66人）

(イ) 医師配置状況

令和2年4月1日現在

	内	外	小	整	耳	眼	産	皮	リ	精	泌	脳	麻	放	歯	計
計画	6	5	2	4	1	1	1	1	1	0	2	0	1	0		25
現状	10	3	2	6	1	0	2	1	2	0	1	0	0	0	1	29

※会計年度職員4名を含む

(ウ) 医師年齢構成

令和2年4月1日現在

年代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	合計
人数	5	7	5	8	3	1	29

※会計年度職員4名を含む

(エ) 地域枠推薦医学生の年度別人数

令和2年4月1日現在

島根大学医学部（10人）						医師（15人）			
1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	初期研修医	専攻医	6年目以降	
1人	2人	1人	3人	2人	1人	1年目 0人	医師3年目 5人	医師6年目 2人	医師8年目 0人
						2年目 4人	医師4年目 0人	医師7年目 1人	医師9年目 1人
							医師5年目 2人		

医学生：10名 医師：15名 合計：25名

- ・当院で初めてとなる、総合診療専門研修プログラムによる専攻医 1 名が平成 31 年 4 月より専門研修を開始した。(県内はほかに 2 名(県立中央病院、松江生協病院)が専門研修を開始) 今後、当院を中心とした 3 年間のプログラムの充実を図り、総合診療専門医取得及び雲南の地域医療に貢献できるようサポートを継続していく。
- ・しまね地域医療支援センターの助成金を活用し、各分野の著名な医師を当院へ招聘し、総合診療のスキル獲得及び教育システムを構築する総合診療医育成研修・講演会を 5 回開催した。
- ・雲南市出身地域枠推薦医師 2 人(整形外科・外科)が当院で勤務し、雲南の地域医療に貢献した。また、令和 2 年 4 月現在では 1 人(整形外科)が引き続き当院で勤務している。
- ・地域枠推薦医学生及び看護学生との意見交換会を開催。10 月には初めて奥出雲町と合同で開催した。総勢 39 人が参加し「チームうんなん」の絆を醸成した。
- ・地域枠医師(13 人)に対し、今後のキャリア相談や雲南市の地域医療の現状を伝えるため、個人面談を行った。
- ・地域ケア科医師が医師短期研修を 3 年間利用し、マーストリヒト大学の医学教育修士を取得した。学んだ知識等は、総合診療医育成や医学部学生教育に十分に活かされている。

② 看護師の確保について

- ・雲南市出身地域枠推薦者について
地域枠推薦者は 22 名(看護師 15 名、学生 7 名)。これまで看護師となった 14 名が当院で勤務し、雲南の地域医療に貢献している。(令和 2 年 4 月 1 日現在)
- ・看護師奨学金制度利用状況(令和元年度: 1 名)
- ・5 月に認知症看護認定看護師が誕生し、また、皮膚・排泄ケア認定看護師の研修受講が終了した。現状の認定看護師 4 人(感染管理、緩和ケア、摂食・嚥下障害看護、認知症看護)に加え、今後、5 人となる見込み。

③ 地域医療人育成センターの取り組みについて

地域医療を担う医療人の育成については、平成 21 年 4 月に設置した、「地域医療人育成センター」を中心に取り組みを進めている。今後も引き続き重点施策に位置づけ、以下の事業を中心に育成事業の更なる強化を図っていく。

・令和元年度地域医療人育成センター事業実績

(ア) 医師育成事業

1) 総合診療専攻医研修(1 人)

10 月より、松江生協病院より総合診療専攻医 1 人の総合診療研修(地域ケア科所属)を受け入れた。外来や入院での総合的なスキルの獲得や地域アプローチなど行い、雲南での総合診療を学んだ。

2) 初期研修医による地域医療研修(22 人 延 22.5 ヶ月)

島根県立中央病院(5 人)、島根大学医学部附属病院(5 人)、松江赤十字病院(2 人)、浜田医療センター(2 人)、松江市立病院(1 人)、鳥取大学医学部附属病院(1 人)、姫路赤十字病院(6 人)

- 3) 島根大学医学生地域医療実習 (17人 延38週)
6年生:10人(延24週) 5年生:7人(延14週)
- 4) 夏季・春季地域医療実習 (3人) 夏季:3人(8月)、春季:中止(3月)
- 5) 島大推薦入学医療体験
緊急医師確保枠:4人(8月1人、11月3人) 地域枠:中止(3月)
- 6) 島根大学医学部フレキシブル実習 (2人)
日当直:10回(4~12月)、臨床実習:5週(2/17~3/19)

(イ) 看護師等育成事業

- 1) 特定行為看護師実地研修〔新規〕(1人)
JADECOM-NDC 研修センター(地域医療振興協会)より1人を12月から30日間受入れ、19区分の特定行為の研修を実施した。また、島根県立大学と特定行為看護師及び診療看護師研修の協力施設となった。
- 2) 認知症看護認定看護師臨地実習(2人):松江看護キャリア支援センター
- 3) 母性看護実習(9人):出雲医療看護専門学校、松江総合医療専門学校
- 4) 在宅看護実習(21人)
出雲医療看護専門学校、島根大学医学部、松江総合医療専門学校、島根県立大学
- 5) フィールド学習(10人):島根県立大学(8/28~30)
- 6) 喀痰吸引研修〔新規〕(12人)
雲南圏域内の介護福祉施設からの要望を受け、島根県介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修(不特定多数の者対象)の実地研修(第二号研修)を実施した。
- 7) その他病院実習(10人)
理学療法士(7人)・作業療法士(2人)言語聴覚士(1人)

(ウ) 医療職体験事業

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1) 高校生医療体験セミナー | 22人(7/30、3月中止) |
| 2) 島根県メディカルアカデミー | 34人(8/9) ※島根県主催 |
| 3) 一日助産師体験 | 4人(8/8) |
| 4) 中学生医療現場体験セミナー | 13人(8/20) |
| 5) 雲南市「夢」発見ウィーク | 7人(10/9~11) |

(エ) その他

- 1) 三刀屋高校未来創造探求FW 12人(6/11、12/17)
- 2) 大東高校地域課題研究 3人(12/16)
- 3) 加茂中学校1年生班別自主研修 16人(6/25)
- 4) ふるさと教育(三刀屋中、加茂小、阿用小、掛合小、木次小) 201人(10~2月)
- 5) 他団体からの視察受け入れ(三重県名張市、宮崎県都農町など)

(2) 経営の効率化を図り、経営基盤の強化を図ります。(経営効率化編)

(3) 一般会計の負担(操出基準)の適正化を図ります。(経営効率化編)

その他

- ・雲南市の委託事業として、「産後母子ケア」事業を継続し、5名(12日間)の受入れを行った。また、助産師が雲南市の育児相談に参加し、育児に対する悩みなどの相談を受けながら、院外での活動を広げることに努めた。
- ・助産外来を(2回/週)を行い、妊娠期の関わりを深め、安心・安全な出産育児への支援を行った。
- ・赤ちゃん体操教室・マタニティビクス教室を継続し、周産期支援を拡充した。
- ・掛合診療所を平成31年4月より当院に経営統合し、新たに雲南市立病院附属掛合診療所としてスタートした。主に掛合、吉田地域の医療を担い、更に当該地域における在宅医療として訪問診療の拡充を図った。
- ・令和元年9月より新たに歯科・口腔外科を開設した。地域の医療機関及び院内の他科から紹介された口腔外科疾患、また、入院患者の手術前後の時期における口腔ケアなどを中心に毎週火曜日に診療を行っている。
- ・平成29年4月より雲南市健康福祉部健康づくり政策課に市役所との連携強化や地域包括ケアシステム構築の推進に向け、当院職員が併任で業務を行っている。
- ・雲南市の健康づくり拠点として、加茂 B&G 海洋センター(ラソンテ)がリニューアルされたことに伴い、平成30年7月より当院理学療法士2名が水中運動指導士の資格を取得し、市民を対象に水中運動教室を月2回開設し、ロコモ対策の水中ウォーキングを提供している。
- ・市内12ヶ所の事業所と当院医師6名が産業医として定期的に職場巡視などを実施した。

実施計画 集計表

R2年3月末 現在

基本方針	取組状況	実施時期及び取り組み状況	今後の課題
具体目標 具体的取り組み事項			
1. 住民の安心安全のための医療充実			
(1) 地域医療の拠点病院として、急性期・回復期医療を中心とした医療を提供します。			
① 急性期を中心とした医療体制の提供に務めるため常勤医師が困難な診療科については、関係機関に依頼し体制整備を図ります。	○	継続して関係機関(県、大学等)に依頼をしている	
② 急性期医療を担う上で、CT・MRIなどの高度医療機器について、医療機器導入整備計画を策定し、安心・安全な医療を提供するための更新・整備を図ります。	●	医療機器導入整備計画を策定し、令和元年度導入分の入札を行い整備を図った	
③ 総合医療情報システムを平成29年度中にバージョンアップし、更なる医療サービスの向上と安全な医療を提供します。	●	平成29年度にバージョンアップ済み。平成30年度に診療局・管理棟の端末整備を実施した。	
④ 医療情報ネットワーク(まめネット)の活用により三次医療機関等との診療情報を共有化し、患者サービスの向上を図ります。	●	月2回程度、当院にて外来患者向けにまめネット参加普及活動を行っている。また、他院へ患者紹介する場合もまめネット同意説明を行い、診療情報が共有できるようにしている	
⑤ 病床数について、雲南市の人口推計では今後20年間で約10,000人の減少が見込まれるものの、高齢者人口はほぼ横ばいで推移すると予測されていることや、高い病床利用率(約90%)であることから、既存の病床数(281床)を維持します。	●	平成30年3月22日、既存病床数と同病床数の281床として開院	
⑥ 急性期治療後の在宅や介護施設等への復帰に向けた医療や支援の更なる充実を図るため、地域包括ケア病棟を5床増床します。	●	平成30年3月22日、新本館棟において現行43床を48床として開院	
⑦ 新本館棟の病床すべてを1床あたり8㎡以上とし療養環境の充実を図ります。	●	平成30年3月22日、新本館棟病床すべてを1床あたり8㎡以上として開院	
⑧ 介護型の療養病床については、国の方針により平成30年3月末で廃止するとされています。このことより、介護療養病床(48床)については医療施設としての役割を考慮し、平成29年度中に医療型への転換を図ります。	●	平成29年7月医療型へ転換を行った	
⑨ 外来化学療法室を開設し、外来で快適・安全に化学療法(抗がん剤治療)を受けることができる環境を提供します。	●	平成30年3月22日、化学療法室運用開始	
(2) 災害拠点病院として、災害時の医療提供体制の整備を図ります			
① 災害時における医療救護活動を円滑に行うため、地域住民を交えた総合的な防災訓練(火災訓練:年2回、防災訓練:年1回)を実施します。	●	令和元年度 火災避難訓練7・12月、防災訓練2月実施	
② 県市町が実施する防災訓練に参加し、防災関係機関との連携を図ります。	●	令和元年度 9月:出雲空港避難訓練 10月:DMAT実働訓練 11月:高速旅客船事故訓練 12月:美保基地SCU訓練	
③ 災害時に傷病者等の受け入れや災害医療活動を行うための活動スペース(屋外トリアージスペース、院内臨時処置スペース及び傷病者・救護者・支援物資受入エリア)の設置と、インフラ、処置スペースへの医療ガス配管等の設備を整備します。	●	新本館棟及び駐車場に災害活動スペース整備	
④ 災害時の不測の事態に備え常備計画(テント・発電機・飲料水・食料・生活用品等)を平成29年度中に策定します。	○	常備計画策定予定	
⑤ 圏域内の医療関係団体、災害拠点病院及び市町で構成する地域災害医療対策会議において、緊密な連携体制を構築し、災害医療体制に係る情報共有や意見交換を行います。	●	雲南地域災害医療対策会議に出席し、意見交換等を行った。 原子力災害医療関係機関連絡会議他出席	
⑥ 災害派遣医療チーム(DMAT)を2班体制とし医療救護体制の更なる充実を図ります。	●	平成28年度、2班体制とした	
⑦ 大規模災害等の発生時、DMATを派遣します。	●	要請があれば派遣できる体制を整えている	
⑧ 大規模災害時における災害医療救護班を派遣できる体制を図ります。	●	要請があれば派遣できる体制を整えている	
(3) 救急医療体制を維持し、住民が安心して生活できる二次救急医療を提供します			
① 救急患者の症状にあわせ、地域総合診療科の充実を図り初期治療対応に努めます。	●	専門外・処置困難といった受け入れ不可事案が依然見られるため、内部協議を重ねバックアップ体制を整え不可事案の減少に努める	
② 雲南保健所、雲南消防署、圏域内の二次医療機関との合同救急連絡会議を定期的(1回/月)に開催し、救急の連携体制の充実を図り、救急患者の受入れ増加に努めます。	●	平成28年度から2ヶ月に1回定期開催 救急受入件数:H27年度:591件、H28年度:741件、H29年度:830件、 H30年度:827件、R1年度:904件	
③ ドクターヘリによる重症度判断後の受け入れ(Jターン)に応じ、圏域内の完結率の向上に努めます。	●	令和元年度は要請がなく実績は0件であったが、引き続き圏域内の完結率の向上に努める	
④ 雲南医師会の協力による休日診療(平成29年1月開設)の支援を行い、患者の休日の急病対応の充実を図ります。	●	インフルエンザ時期は、休日診療の効果が多大であった(20名/日) 季節による受診率の実績を踏まえ、4月～11月は9時から13時、12月～3月は9時から17時の体制で休日診療を運営することができた。	診療体制については医師会の負担も考慮しながら雲南市と調整する必要がある。

基本方針		取組状況		実施時期及び取り組み状況	今後の課題
具体目標	具体的取り組み事項	達成済	継続中		
(4) 安心して子育てできる環境を確保するため、小児・周産期医療の連携を密にした診療体制を整備します					
①	周産期診療の環境をユニット化することで混合化する病棟の中での環境を整備し、母児の安全と安楽を整え、正常に経過する体制の整備に努めます。	●		新棟において、産婦人科外来と病棟の一体化、病棟内のユニット化を図り、安全と安心の提供に努めている	
②	ハイリスク妊娠(若年、高齢、多胎、合併症等)に対して、他の医療機関及び行政と連携し支援の充実に努めます。	●		島根大学・県立中央病院との連携(まめネット利用)を継続している 産婦人科医師2名体制を確保できた	
③	小児科医2名体制を目指し、小児の初期救急体制の整備を図るとともに、他圏域との連携により、保護者をサポートし救急時の不安の軽減に努めます。	●		平成29年4月から小児科2名体制となる	
④	乳幼児健診事業への支援、各種予防接種のバックアップ病院としての医療提供をし、安心して子育てできる環境を確保します。	●		小児科2名体制により、各種支援が充実できている	
⑤	小児が入院できる医療機関としての体制を維持します。	●		小児科オンコール体制が整い、入院への対応もスムーズとなっている	
(5) 地域包括ケアシステムを構築する一環として、在宅医療や認知症対策を推進します					
①	地域ケア科を中心に地域住民の在宅医療に対するニーズを把握し、病院内でワーキンググループを立ち上げ在宅医療を推進します。	●		既存の在宅医療連携推進委員会で検討し、平成28年7月訪問診療ワーキングを立ち上げた。平成28年8月から訪問診療を開始し、令和元年度は28名に対し訪問診療(170回)、往診(14回)を行った。在宅見取りは10名。 平成29年4月より雲南市健康福祉部健康づくり政策課へ当院から1名併任し、その部署と連携しながら医療と介護連携の問題や課題についてヒアリングを行っている	
②	開業医と連携し、訪問診療や在宅看取りを推進します。	●		平成28年度雲南医師会総会において当院が訪問診療を行うことの説明をし、診療所の医師とは訪問診療が必要な患者の情報共有と役割について協議し行っている	
③	積極的に地域の訪問看護ステーションと連携します。	●		訪問看護STうんなん、なごみ訪問看護ST、コミケアと連携した。訪問看護STだけではなく、看護小規模多機能型居宅介護とちのみと連携し看取りを行った。また、松江市の訪問看護STとも連携し在宅医療へ移行できた。	他圏域との訪問看護STと連携をはかる
④	高齢者人口が年々増加する中、認知症患者が増加社会的問題となっていることから、雲南市と連携を図りながら認知症対策を重点施策として推進します。平成28年度中に推進に向けた院内体制の整備を図り、平成29年度から院内多職種協働の認知症サポートチーム(DST)を設置し、具体的取組みを進めます。	●		平成28年度は認知症に関する研修に積極的に参加し、職員を対象とした伝達講習を行った。平成29年4月認知症サポートチームを設置し、認知症に関する出前講座にも積極的に出かけている。また、ユマニチュードインストラクター養成研修へも参加している。令和元年度は看護師1名が認知症認定看護師を取得した。	
(6) 情報発信に努め、定期的に地域との連絡の場を確保するなど、地域に開かれた病院を確立します。					
①	住民組織(がんばれ雲南病院市民の会など)と研修会や意見交換会等を通じ、さらなる協働での病院づくりに努めます。	●		がんばれ雲南病院市民の会及び雲南市立病院ボランティアの会主催による、新たに着任された医師の歓迎会を前年度に引き続き開催し、地域を挙げて6名の医師を歓迎していただいている。(平成29年度 医師5名、平成30年度 医師3名、令和元年度 医師6名)	
②	「雲南市立病院ボランティアの会(平成21年5月に発足、平成28年5月現在の会員数45名、愛称「てごっ人」)」と協働し、院内の美化活動、正面玄関での介助ボランティア活動、病院祭など院内催し物の準備活動などを行います。また、「地域を守り育てる住民活動シンポジウム」など、他団体の取り組みにも積極的に参加し、地域住民との更なる連携強化に努めます。	●		引き続き、正面玄関での介助ボランティアや院内美化活動を行い、一緒に活動することで益々の連携強化を図っている。また全国シンポジウムや邑南町のシンポジウムに職員も参加し意見交換した。	
③	雲南地域医療を考える会主催の地域医療シンポジウムにも引き続き参画し、地域医療の実情や病院の方向性などについて情報を発信し、住民との相互理解が得られるよう努めます。	●		令和元年11月2日に開催された第15回のシンポジウムに職員も積極的に参加し、未来を見据えた地域医療の人的づくりをテーマに医療と教育、地域人材の育成と確保について議論を深めた。	
④	健康で暮らしていくための助言や病院からの情報発信を目的に開催している、医療出前講座「飛び出す! 雲南病院講座」を引き続き積極的に行います。また、雲南市出前講座「ふるさと講座」とも連携して取組んでいきます。	●		平成元年度は過去最高の107回(3,010名)開催した。うち医師は33回参加した。住民にも出前講座が浸透し、医師を中心に派遣回数は増加している。	出前講座の効果をどのようにしてとらえるか 雲南市のふるさと講座との連携をどのようにかはるか
⑤	雲南市内地域自主組織及びNPOと連携して、医学生の実習の一環である「暮らし体験」などを実施し、地域住民と一体となった医療人育成事業を継続して取り組みます。	●		久野地区振興会と連携し、多くの医学生・研修医の暮らし体験を受入れていただいた。また、地域のサロン活動にも参加し、その地域の文化や人柄に触れる機会をつくった。	新たな形の地域住民と一体となった医療人育成のあり方を模索する必要性
⑥	市報うんなん、公式ホームページ、フェイスブックなどの各種メディアを通じ、病院からの積極的な情報発信に努めます。	●		H31.3月にホームページをリニューアルし、分かりやすく情報を整えた。市報は毎月4ページ発行し、facebookは年100回程度更新している	
⑦	地域に開かれた病院づくりのため、平成23年9月より毎年行っている「病院祭」を、今後も継続して開催(年1回)します。	●		令和元年10月19日に第9回病院祭を開催。「いま、おもいをかたちにして～歴史を背に、未来を胸に～」をテーマに情報発信と地域住民との交流を図った。	
⑧	タウンミーティング(座談会)を計画的に開催し、幅広く住民との意見交換を行う場を作り、よりよい病院づくりに反映させます。	○		病院独自で座談会を開催するか、行政と連携した形で行うのか検討中。また、行政が実施している地域自主組織訪問に帯同し、意見交換を行うことも併せて検討中。	

基本方針		取組状況		実施時期及び取り組み状況	今後の課題
		達成済	継続中		
具体目標 具体的取り組み事項					
2. 高度先進医療及び地域医療機関との連携強化					
(1) 高度の医療を中心とする5疾病などの医療は、急性期と回復期医療の中心的役割を担いつつ三次医療機関との連携を図ります					
①	三次医療機関への紹介については、予約紹介率の向上に努め連携強化を図ります。	●		県内地域連携看護師会議(1回/3月)に参加し、三次医療機関と情報共有しながら連携強化を図っている	
②	三次医療機関からの逆紹介については、現在100%を達成しており、今後も継続維持に努めます。	●		地域連携看護師会議(1回/3月)に参加し、三次医療機関と情報共有しながら連携強化を図り、逆紹介の受入れは100%を維持している	
③	回復期リハビリテーション病棟について、休日リハビリテーションを実施(平成28年7月)し、患者が集中的なりハビリテーションを365日継続して受けることで、早期の在宅復帰を目指す。	●		土日祝日にリハビリテーションを1日50件程度実施し、患者が早期復帰できるよう努めている。	体制充実のための人員確保
④	がんの治療による疼痛、筋力低下、障害等の改善を目的として行う「がん患者リハビリテーション」について、平成28年度より実施します。(平成28年9月より開始)	●		がん患者リハビリテーションを月100件程度実施し、治療による疼痛、筋力低下、障害等の改善を図っている。	体制を維持していくための人員確保、人材と人材養成のための研修機会の確保
(2) 一次医療機関(診療所)との連携を強化します					
①	患者・家族の安心の担保、また診療所医師の負担軽減のため、平成27年7月から在宅療養後方支援病院として登録患者(250名:平成28年6月現在)を受け入れており、開業医と連携しさらに登録患者を受け入れます。	●		令和2年3月末現在、登録患者数は265名となっている。	
②	掛合診療所の職員と人事交流を行い、連携強化を図ります。	●		掛合診療所については、医師の相互派遣や整形外科医師の定期的な派遣を継続しながら経営統合に向けた協議を進め、平成31年4月より当院の附属掛合診療所として新たにスタートした。	
(3) 圏域内の二次医療機関との連携を図ります					
①	現在行っている二次医療機関との連携は、診療応援として町立奥出雲病院に耳鼻科医師、飯南町立飯南病院に整形外科医師を週1回派遣しています。また、救急医療についての状況を共有し対策等について協議するため、月1回救急医療連絡会を開催している他、当院の宿日直医師の情報を平成記念病院に提供し、救急医療の連携を図っています。	●		診療応援等について、今年度も継続して実施している。	今後も、圏域内の二次医療機関との連携強化に努める
②	今後については、がんなどの急性期医療の提供体制及び、子どもを産む世代の減少やそれに伴う子どもの数の減少が見込まれる中における小児・周産期医療について、関係機関と連携して圏域内での機能分担や集約化の協議を進めます。	○		各二次医療機関の実情や問題点等についての共有化を図っている。	機能分担などの協議方法が課題(地域医療構想など)
3. 地域保健の充実と介護・福祉との連携強化					
(1) 圏域内の保健・福祉と一体とした地域医療サービスを提供します					
①	保健所や市町の保健関係者との情報交換や、雲南市保健関係者定例会(1回/月)を通じ、専門的な研修や地域の健康問題を共有し健康づくりの推進を図ります。	●		定例会議には毎月出席し情報共有を図っている	
②	在宅介護を推進するため、介護施設等に認定看護師などの専門的知識を要する職員を講師として派遣し、地域の医療と介護の連携を図ります。	●		出前講座で福祉施設へ認定看護師等が出向き勉強会を開催している	
(2) 地域保健と連携し、生活習慣病の重症化の予防を図ります					
①	特定健診要精査者のフォローアップ体制、および脳卒中発症リスクに対する重点的な介入方法などについての取り組みとして、保健所と連携し、糖尿病教室(4回/年)、市民健康講座(3回/年)、健診事後フォローアップ教室(2回/年)などの各種保健事業を実施します。	●		例年開催していた糖尿病教室と市民健康講座を、令和元年度はそれぞれ1回ずつ計画をしていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で開催できなかった。	定期的な開催
②	雲南圏域の糖尿病対策推進を目的に、行政・医療機関等で構成する「雲南圏域糖尿病対策連絡会」及び「雲南糖尿病サークル大原」に引き続き参画します。また院内の糖尿病対策委員会及び糖尿病サポートチームを中心に、糖尿病患者の支援、啓発活動を推進します。	●		糖尿病に関する会議はすべて参加。サークル主催の研修会に多職種参加した。糖尿病週刊行事にあわせ、院内でブルーのクリスマスツリーを飾り糖尿病に関する啓発活動を行った。	
(3) リハビリテーションを中心とした環境を整備し、高齢者が安心できる医療を提供します					
①	雲南市地域包括支援センター主催の「日常生活圏地域ケア会議(年10回程度開催)」へ、リハビリテーション提供病院として参画し、介護・福祉との連携強化を図ります。	●		雲南市地域ケア会議と雲南市地域リハビリテーション活動支援事業(雲南幸雲体操指導)に療法士が参加・参画し、市内のニーズに対応している。	依頼数に対応できる体制確保と環境整備
②	心身機能の維持回復や日常生活の自立に向けたリハビリテーションを行う訪問リハビリテーションについては、地域のニーズが多いことから体制を強化し、利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送ることができるよう努めます。	●		訪問看護ステーション配属の療法士のほかに、必要に応じて利用者のニーズがある言語聴覚士が訪問リハビリを行い、リハビリテーション提供体制を強化している。	

基本方針			取組状況		実施時期及び取り組み状況	今後の課題
具体目標	具体的取り組み事項		達成済	継続中		
4. 地域医療を安定的に提供するための健全経営						
(1) 安定した医療を提供できる人材確保や育成に努め、また職員意識の高揚を図ります						
① 医師確保について		常勤医師確保のため、関連大学(島根大学、鳥取大学、岡山大学)へ医師招聘を積極的に働きかけます。	○	関連大学への挨拶まわりや積極的に大学主催の研修会等に参加し顔の見える関係構築を図った。	不足診療科への医局からの医師派遣	
		島根大学医学部地域枠推薦により入学した医師について、医師免許取得後の初期研修または後期研修終了後に、一定期間当院にてキャリアアップできる体制整備を強化します。	●	平成31年4月現在、雲南市出身の地域枠推薦医師1名(整形外科)が当院で勤務し、雲南の地域医療に貢献している。専門医、サブスペシャリティが取得できるよう、研修環境の充実を図っている	研修環境だけでなく、指導医の指導法等を含めての体制整備	
		島根県「赤ひげバンク」と密な連携を図り、1ターンの医師の確保に努めます。	●	赤ひげバンクと情報交換を行い、引き続き1ターン医師の確保に努める	常勤医不在診療科への医師着任	
		NPOや各種住民団体と連携し、医師確保に繋がる情報の収集に努め、医師招聘を図る取り組みを強化します。	○	NPOや各種団体と連携強化を図っているが、医師確保に繋がる情報はあまりなく、医師招聘の実績もなかった。今後は行政も一緒に強化を図る	情報収集や情報共有、役割分担など整理する必要性	
		平成30年度よりスタート予定である新専門医制度において、基本領域の「総合診療医」は、基幹型施設としてプログラム申請を行い、専攻医が研修できるプログラムと環境を整備していきます。	●	日本専門医機構の総合診療専門研修プログラムの認定を受けた。今後は、積極的な発信や勧誘を行い雲南で総合診療を志す若手医師の研修環境整備を行っていきます。	プログラムの質の向上と、指導体制を充実	
		総合診療医以外の基本領域については、島根大学をはじめ県内外の基幹施設の連携施設としての役割を担えるよう、指導医取得や研修環境整備を推進していきます。	●	基本領域で当院が連携施設になれる診療科はすべて連携施設として申請を行った。今後は常勤医不在(指導医)の診療科の医師招聘を図り、連携施設となれるようにしていく	計画的な診療科別に指導医取得計画や、指導体制づくりが急務	
		雲南圏域において特に必要な家庭医・総合医を確保するため、日本プライマリ・ケア連合学会学術集会などへ職員を派遣し、研修施設としての積極的なアピールを行い、医師及び研修医の招聘活動を行います。	●	5月17,18日開催の日本プライマリ・ケア連合学会学術集会に職員4名が研究発表を行い、プログラム紹介も行った。7月21日、2月11日開催の島根県総合診療専門プログラム説明会に参加し、学生や研修医に研修プログラムの紹介を行った。	専攻医マッチに向けた取り組み強化	
		常勤医師の専門医取得、スキルアップ支援策として、希望する医師に対し医師国内・国外研修制度の活用を推進します。	●	6月に1週間、マーストリヒト大学で医学教育修士を取得するため海外研修を活用し研修を支援(3年間受講の3年目)。昨年、内科医師がERCP(内視鏡的逆行性胆管腔造影)の技術取得のために、医師短期研修を活用し5日間島根大学で研修を実施。平成28年度に医師国内研修を利用し在宅医療研修を行い、平成30年6月に在宅医療専門医を取得した。	研修後、獲得したスキルを活かす環境整備と職員との意識と共通認識を図る	
		特定非営利活動法人GLOWと連携し、地域医療・国際保健に貢献できる人材の研修を受け入れる体制の充実を図ります。	●	実際に制度を利用する実績はなし		
		医師事務作業補助者の配置を充実するなど、医師の負担軽減に繋がる取り組みを強化します。	●	H30.9月に1名増員し、医師事務作業補助者3名体制とした。今後も医師との協働の中で、業務の拡大を図っていく		
② 看護師の確保について		看護の質の向上及び看護職員のスキルアップ支援策として、希望する看護職員に対し、認定看護師資格取得支援制度を継続して実施します。	●	認定看護師の皮膚・排泄ケア部門を1名が研修終了。特定行為看護師を1名受講。認定看護師取得後の院内外での活動を推進し、介護施設等新たに派遣することができ、特定分野の専門的知識の普及が図れた。		
		職員の勤務環境改善を目的に設置した、「ワークライフバランス推進委員会」の活動を強化し、働きやすい環境づくりを進めます。	○	夜勤看護師の制服を変更することで、勤務者を明確化し、効率的な業務運営を検討。次年度からの実施を目指す。		
③ 地域医療人育成センターの取り組みについて		島根大学医学部地域枠推薦入学者、島根医大学医学部緊急医師確保対策入学者にかかる医療体験実習を受け入れます。	●	緊急医師確保枠:4人(8月1人、11月3人)地域枠:中止(3月コロナにより)		
		雲南市出身地域枠推薦医学生及び地域枠推薦医師の実習や研修を受け入れるとともに、雲南市と連携し定期的に意見交換会を開催します。	●	医学部地域枠学生・医師との交流会は10/24に開催した。例年3月開催している地域枠学生(医学・看護)意見交換会はコロナにより中止		
		石見高等看護学院地域枠推薦入学者の安定的確保に努め、定期的な意見交換を実施します。	●	石見高看1年生が病院見学を行い、8/6石見高看護地域枠学生と意見交換会に参加。		
		看護師・医療技術職を養成する各種学校の病院実習を受け入れ、他の医療職の育成にも努めます。	●	令和元年度は、新たに特定行為看護師実地研修と喀痰吸引(2号研修)を実施。また、県内4看護学校より40名の学生を受け入れ実習を行った。また、リハ科10名の医療技術職の実習を行った。		
		島根大学医学部「地域医療実習」の説明会に参加し、5~6年生の医学生の地域医療実習を受け入れ、大学では体験できない実習を実施します。	●	令和元年度は、6年生を10名(延24week)、5年生を7名(延14week)の実習を行い、雲南地域の特徴のある実習を提供した。特に6年生は実習期間が長いのが特徴で、より学びも深まった。		
		島根大学医学部主催の夏季・春季地域医療実習を受け入れ、地域医療へ関心を持つ医学生を育成します。	●	8月20~22日、夏季地域医療実習で3名の学生を受け入れ、地域医療への関心をもつよう動機付けを行った。3月の春季地域医療実習はコロナにより中止となった		
		医学生より希望があれば、フレキシブルに実習を受け入れます。	●	島根大学医学部学生日当直(10回)、臨床実習(5week)、フレキシブル実習を受入れた。		